

町長と未来について語ろう会③会議録

開催日

開催日時 令和6年8月22日(木) 19:00から20:30
場 所 よませふれあいセンター 2階 和室

次第

1. 開会

2. 町長あいさつ

お集まりいただきありがとうございます。3回目になりました。人数の多い少ないは関係ありませんので、いろいろな意見交換ができたと思っています。よろしくお願いします。

3. 町出席者紹介

4. 意見交換

町長 始めに1年間の取り組みとして、役場の組織改革を大幅に行い役場機能を向上させた。企画係を独立させ未来創造課とし、子ども関連業務は教育委員会に集約、観光関連業務はまちづくり観光局へ窓口を一本化。働き方改革として職員の服装自由化など内部改革も行っている。観光に関してはPR予算を削減し、ロマン美術館や湯田中駅周辺の整備など受入環境整備を進めている。農業では、ブランド農業の振興やスマート農業機械の導入支援などを行い、高齢化が進む農家をサポート。教育では、ALT(外国語指導助手)を2人から5人に増やして各小中学校に配置。姉妹都市を増やす過程で国際交流も推進したい。ゼロカーボン・環境対策としては昨年「ゼロカーボンシティ宣言」をして、公用車の見直しなどCO2削減に向けた施策を推進している。ブランディングの一環で新たに「ディスカバー山ノ内」のロゴを作成。

続いて課題として、人口減少・少子高齢化、産業の偏りがある。孫たちが帰ってくる魅力ある町にするために、良い循環を生みたい。町に賑わいがあり、住みたい人が増えて人口が増え、町も財源ができて新しい手を打ち、それがまた賑わいを生むという好循環が今は逆転している。賑わいがなく、財源もないから何もできず、人が減り賑わいがなくなる悪循環を1回止め、様々な仕掛けをする必要がある。施設・インフラの老朽化や公共交通の維持、学校統合の課題もあり、子育て施設のサービスは不足している。移住者を増やしたくても住宅や気軽に住める賃貸がなく、町には歩いていける子どもの公園もない。一方で空き家が増え、高齢化率は高く、土地の価格は下がっている。「消滅可能性自治体」に山ノ内町も入っているが、これを変えるためには町民のQOL(クオリティオブライフ)を上げ、ここに住んでよかったと思ってもらいたい。女性が住みやすく、外国人と共生できる。観光で来る他にも様々な形で関係を持つ、山ノ内町のファンを増やすことで新しい人が入って新しい物事が起きる。町民サービス・教育を充実させ、子育て環境を充実させ、経済活性化した魅力ある町として認識される町を作る。そのために教育の魅力をすべての面で向上させたい。魅力的な教育内容と環境にすべく教育長中心に進めている。高率だが私立並みの魅力を持つ、この学校があるからここに住みたいと思われる内容にしたい。統廃合後に出る空き校舎の活用アイデアとしては、6次産業の工場や、子育て支援施設、商業施設、スポーツ施設などを誘致したい。スポーツでは、準備委員会を経て今年山ノ内スポーツクラブが立ち上がった。部活動の地域移行は国の方針であるので、地域としての受け

皿であり、かつ町民の健康増進の支援もできる、誰もがスポーツに親しめる環境づくりをサポートしたい。環境問題の取組では、CO2 過多の状況を解消するためにコンポスト普及によるゴミ削減、森林の利活用再生、地産地消エネルギーなど検討したい。余談で、観光税・宿泊税の導入検討に入っている。観光客から一律何%か徴収する税だが、県が導入予定で、山ノ内といくつかの自治体が検討している。そうして得た税収を観光関連インフラ等の整備に回していきたい。こういう形で財源を確保しつつ観光関連インフラ整備や維持を行い、観光と農業を主軸に、山ノ内の豊富な資源、それぞれのコンテンツをつなげて一体的に取り組み、稼げるまちづくりをしたい。

参加者 学校になじめない子、障害児と言われる子の 2 人を育てている。普通の学校に馴染めている子だったら、統合後の英語教育に力を入れる学校はすごく素敵で魅力を感じると思う。そのほかにもう一つ、小規模でよいので、今の学校になじめない子たちが通いやすい公立学校ができれば、それも町の魅力になり移住者も増えると思う。

町長 日本の教育は画一的で、ステレオタイプに縛られてきた。結果至上主義で子どもの感情や過程を無視し、目に見える結果のみを重視する教育が長く続いてきた。英語教育に関しても、10 年間勉強しても英語が話せないのは教え方に問題があるからだと考えるべきだが、見直されていない。だから次の世代に向けて、見直しながらチャレンジし、フットワークの良い町運営をしたい。学校も様々な子どもに対応できる教育が必要だと思う。英語というのはわかりやすいので言っているだけで、芸術やスポーツに特化した学校があっても良いと思う。新しいことを始める際には理解が得られにくいのが、そうした変化を進めるためには皆さんの意見を取り入れながら、ステップを踏んでいく必要がある。

参加者 総合型スポーツクラブのサッカークラブは、地域おこし協力隊が精力的に運営し、かなり競技力の高い活動をしている。競技力の追求は、個人的にはクラブの在り方として真っ当だと思うが、町が運営するスポーツクラブのニーズとは違うのではないか。今後のサッカークラブの方向性、町としての方向性は。

町長 スポーツクラブは準備委員会、総会を経て今年発足したが、その過程で多くの意見を出させてもらった。目的としてまず一つは、部活動を地域に移行し、学校の負担軽減という課題がある。現状のサッカー教室などは底辺の拡大としては良いと考えているが、部活移行についてはまだ課題が多く、文化として部活動の存在が大きい日本での地域クラブ移行は難しい。スポーツには遊びのスポーツと、上を目指すスポーツの二軸があり、両方のニーズに対応する必要がある。特に全国大会を目指す子どもたちのための上級チームも必要。現在のスポーツクラブは期待していた内容には至っておらず、改善を要する。スポーツクラブの業務は、底辺を拡大する教室運営、部活動を含めたクラブ運営、ジムや温水プールなど誰もが利用できるスポーツ施設運営の 3 点と考え、実現に向けたプラットフォーム作りに取り組んでいる。

参加者 二極化は良いと思う。競技志向のままやりたい子がクラブで続けられる一方、底辺拡大で様々なスポーツ教室もあるのは最高の環境。サッカークラブは協力隊の活動により、サッカー協会にチ

ーム登録をして大会やリーグ戦に参加している。昇格降格がリーグ戦にかかってくるが、そのときに環境がなくリーグに参加できないとなると、リーグ全体にも関わる問題。地域のコーチもこの先不安視しているので、町として方向性を示し、子どもたちが犠牲にならない環境を作っていただきたい。

町長 元アスリートとしてもスポーツクラブには町がお金をかけしっかり作りたいと思い、提案しているが、クラブが別組織であるため、理事たちの納得が得られないと進められない現状。町としてはもっと積極的に関与したいが、様々理由があって現在の理事はその提案に反対している。今月末にも会議があるので、やるからにはしっかりやりたい。協力隊の北村さんはすごく頑張ってくれているし、サッカー業界にも顔が利く方だが、彼がこれからどう関わるか最終決定は理事であって、町としては誠心誠意説得し最悪の事態を避けるために全力で動いているので、少し時間をいただければと思う。

参加者 山ノ内出身の友人と2人でIT関係の事業を立ち上げ、もうすぐ2年になる。ITとスマート農業の二本立てで本格的に発展させたいと思い、東京のオフィスを山ノ内に移転しようと湯田中駅周辺で物件を探しているが、見つかっていない。中野市や須坂市、長野市ではそれなりの物件が市場に出ており、相方が山ノ内出身でなかったら特にここにこだわらなかつたと思うので、起業したい人が始められない環境は町にとって機会損失を生んでいる。都市計画マスタープランには駅前の賑わいを形成していくと書かれているが、今後具体的にどのように駅前や街並みを改善していくのか。

町長 物件不足は商業・住居ともに共通課題で、日本全国の地方で同様の状況が見られる。今、未来創造課が中心となり湯田中区と協力し、空き家の洗い出しや所有者の特定を進めている。ただ空き家の所有者に対して直接お願いしても、なかなか貸してもらえないことが多い。現状では、湯田中区や共益会と連携し、ワークショップを通じて進めている。地価が下がっている現状もあり、現状は仕方ないとして今後は湯田中エリア再生に向け、かえて通りの融雪道路案や景観条例の整備などを検討し、温泉街としての魅力を保つ方法を考えていく必要がある。地元とのコミュニケーションをとりつつ解決策を見出したい。

未来創造課長 昨年末からワークショップを開き、湯田中の町がどうあるべきかを皆さんが考えている。WAKUWAKU やまのうちという地域活性化支援の会社が成功例として全国的に取り上げられていたが、地元ではなかなか馴染めなかつた反省も踏まえ、WAKUWAKU やまのうちの人も仲間に入っただき、湯田中の皆さんがしたいまち作りの形、新しい人が入ったときに一緒にまち作りをしていく形を理想とし、空き家調査を行っている。物件は出てくると思うので、もう少々お待ちいただきたい。行政が何かするというより、民間の皆さんがうまくいくような後押しをする準備をしている。

町長 地元の人に「空いている家を使わせてください」と頼むのはハードルが高い。お店を開きたい人も場所がなく、市場にも出てこない。情報は内々でしか得られないことも多いので、引き続き探してほしい。町も努力するし、まちづくりには時間がかかるが、諦めずに良い物件を見つけてほしい。

参加者 金沢近郊に佛子園（ぶっしえん）という社会福祉法人が運営する施設がある。社会福祉法人メインの施設で、温泉、足湯、レストラン、子どもが遊べる大型遊具やクリニック、フィットネスジムや小規模な室内プールがある。大規模施設ではないが、お風呂は地元の方は無料、観光客は有料で入れる。レストランでは障害のある方が働いており、客もそれを承知で来るのですごくおおらかな雰囲気。ジムは低価格で利用でき、知的障害のある方のサポートもある。しかも黒字経営とのこと。効率重視の世の中だが、ゆっくりした雰囲気の施設が町にもあったらと思う。働き方もしっかり働かずとも、障害がなくても子どもがいて短時間しか働けない人などにも、選択肢があると良い。

町長 その施設は知らなかったので勉強させていただく。役場も、障害があっても働けるとかどんどん受け入れる組織になるべきだし、地域社会としてもそういうところを作った方がいいと思っているので、参考にさせていただきたい。働き方も変わりにくいを変えていこうと思う。

参加者 リモートワークが普及した今、しばらく滞在して働きつつスキーを楽しむようなワーケーションを町がもっと推進すれば、関係人口が増えるのではないか。ホテルや民間事業者に加えて観光課などがもっと発信した方が良い。それと、地元出身だと町の良さに気づきづらい。自分自身も駅前が寂れていることを当然のように受け入れていたが、外から見たらもったいないと感じるようだ。ポテンシャルがある町なので、もっと町の皆さんもこの資源を活かして良い町になったらと思う。

町長 私も 25 年ぶりに帰ってきて改めて町の良さを感じている。テレワーク普及に伴いテレワークオフィスの検討も考えられるが、実際には収益化が難しい面もある。観光地としてビジネスハブも作るべきだとは思うが、収益化できない事業に手を出せないのは町も同じで、そこはシビアにやるべき。観光の町としてビジネスも観光に紐づくため、湯田中駅やロマン美術館周辺の拠点整備は進めたい。色々アクションを起こしたいので、ぜひこういう機会でもなくとも、町長室にも気軽に立ち寄ってほしい。

参加者 統合後の跡地利用候補に、発達障害の子が行ける高等学校も入れてほしい。中学から先は支援が切れるため、需要は全国にある。それから先ほどの、わざわざ山ノ内を選んで来てくれた若い方には町を挙げてサポートしてほしい。本格的な拠点が見つかるまでのシェアオフィス整備や、インフォメーションセンターの 2 階も活用できるのでは。サポートしつつ、彼らに学校で話してもらえば、子どもたちの勉強にもなるかと思う。もう一点、群馬県の川場田園プラザという道の駅は子どもの手を離して遊べるスペースがある。親もその間に食事や買い物ができ、家族でゆっくりできる理想の場所。そういう改修も検討されてはどうか。

町長 発達障害関連では皆さんが情報収集していると思うので、引き続き教育長と話しながら、魅力あるまちの中に第 3 の場所をちゃんと作り、サポートがあるまちづくりをしたい。若い 2 人がビジネスチャンスだと思って来てくれているので、引き続きサポートはしたい。空き家利用や起業の補助金もあるので、活用してうちの町で起業してもらえればなと思う。道の駅の件、新しい道の駅のコンセプトも含めてこれから作っていくが、子どもが遊ぶスペースは必要と思う。元々町には子どもを手放して遊べる公園や子どもが歩いて行ける公園がすごく少ない。ちゃんと今後検討していきたい。

参加者 学校統合後の跡地利用について。東小学校で足湯に使っている温泉をプールに活用できないか。

町長 小学校に源泉はなく引いてきているということなので、温泉の活用はまた考えたい。社会体育館跡地を広い施設にするが、統合後にもし東小学校が空いた場合には、有効利用をしないといけないと思っている。これだけ温泉が出ている町なので、どこかに温泉プールは作りたい。高齢者や怪我のリハビリにはプールが一番運動しやすい。温泉地ならではの特色という意味では、活用して施設展開したい。

5. 閉会 (20:30)